

665				大気汚染を防止するための法規制
666				水質汚濁を防止するための法規制
667	C13 薬の効くプロセス	(1)薬の作用と生体内運命	薬の作用	薬物の用量と作用の関係
668				アゴニストとアンタゴニスト
669				薬物の作用するしくみ、受容体、酵素およびチャネル(例示)
670				代表的な薬物受容体(列挙)、刺激あるいは阻害された場合の生理反応
671				薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系(列挙)、活性化された場合の生理反応
672				薬効に個人差が生じる要因(列挙)
673				代表的な薬物相互作用の機序
674				薬物依存性(具体例)
675			薬の運命	薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わり
676				薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)(列挙)、その意義
677				経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)
678				薬物の生体内分布における循環系の重要性
679				生体内の薬物の主要な排泄経路(例示)
680			薬の副作用	薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連
681				副作用と有害事象の違い
682			動物実験	動物実験における倫理について配慮する
683				代表的な実験動物を適正に取り扱ることができる
684				実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる
685		(2)薬の効き方 I	中枢神経系に作用する薬	代表的な全身麻酔薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
686				代表的な催眠薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
687				代表的な鎮痛薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
688				代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
689				代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬(列挙)、その薬理作用、機序、主な副作用
690				中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
691			自律神経系に作用する薬	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
692				副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
693				神経節に作用する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
694				自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
695			知覚神経系・運動神経系に作用する薬	知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
696				運動神経系に作用する代表的な薬物(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
697				知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる
698			循環器系に作用する薬	代表的な抗不整脈薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
699				代表的な心不全治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
700				代表的な虚血性心疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
701				代表的な高血圧治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用

702		呼吸器系に作用する薬	代表的な呼吸興奮薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
703			代表的な鎮咳・去痰薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
704			代表的な気管支喘息治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
705		化学構造	代表的な薬物の基本構造
706	(3)薬の効き方Ⅱ	ホルモンと薬	ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用
707			代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用
708			代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用
709		消化器系に作用する薬	代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
710			その他の消化性疾患に対する代表的治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
711			代表的な催吐薬と制吐薬(列挙)、作用機序および主な副作用
712			代表的な肝臓疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
713			代表的な膵臓疾患治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
714		腎に作用する薬	利尿薬の作用機序別分類、臨床応用および主な副作用
715		血液・造血系に作用する薬	代表的な止血薬(列挙)、作用機序と主な副作用
716			代表的な抗血栓薬(列挙)、作用機序と主な副作用
717			代表的な造血薬(列挙)、作用機序と主な副作用
718		代謝系に作用する薬	代表的な糖尿病治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
719			代表的な高脂血症治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
720			代表的な高尿酸血症・痛風治療薬(列挙)、作用機序と主な副作用
721			カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬(列挙)、薬理作用、機序、主な副作用
722		炎症・アレルギーと薬	代表的な炎症治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用
723			慢性関節リウマチの代表的な治療薬(列挙)、作用機序および主な副作用
724			アレルギーの代表的な治療薬(列挙)、作用機序、臨床応用、および主な副作用
725		化学構造	代表的な薬物の基本構造
726	(4)薬物の臓器への到達と消失	吸収	薬物の主な吸収部位(列挙)
727			消化管の構造、機能と薬物吸収の関係
728			受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴
729			能動輸送の特徴
730			非経口投与後の部位別の薬物吸収
731			薬物の吸収に影響する因子(列挙)
732		分布	薬物が生体内に取り込まれた後に組織間で濃度差が生じる要因
733			薬物の脳への移行の機構と血液-脳関門の意義
734			薬物の胎児への移行の機構と血液-胎盤関門の意義
735			薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)、組織への移行との関連性
736			薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)
737			分布容積が著しく大きい代表的な薬物(列挙)
738			代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる

739			代謝	薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位(列挙)
740				薬物代謝が薬効に及ぼす影響
741				薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素(列挙)
742				シトクロムP-450の構造、性質、反応様式
743				薬物の酸化反応(具体例)
744				薬物の還元・加水分解、抱合(具体例)
745				薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)
746				初回通過効果
747				肝および固有クリアランス
748			排泄	腎における排泄機構
749				腎クリアランス
750				糸球体ろ過速度
751				胆汁中排泄
752				腸肝循環、代表的な腸肝循環の薬物(列挙)
753				唾液・乳汁中への排泄
754				尿中排泄率の高い代表的な薬物(列挙)
755			相互作用	薬物動態に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法
756				薬効に起因する相互作用(代表例)、回避のための方法
757		(5)薬物動態の解析	薬動学	薬物動態に関わる代表的なパラメーター(列挙)
758				薬物の生物学的利用能の意味とその計算法
759				線形コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる
760				線形コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる
761				線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違い
762				生物学的半減期を説明し、計算できる
763				全身クリアランスについて説明し、計算できる
764				非線形性の薬物動態(具体例)
765				モデルによらない薬物動態の解析法(列挙)
766				薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる
767				点滴静注の血中濃度計算ができる
768				連続投与における血中濃度計算ができる
769			TDM(Therapeutic Drug Monitoring)	治療的薬物モニタリング(TDM)の意義
770				TDMが必要とされる代表的な薬物(列挙)
771				薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる
772				至適血中濃度を維持するための投与計画、薬動学的パラメーター
773				代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる
774	C14 薬物治療	(1)体の変化を知る	症候	以下の症候が生じる原因とそれらを伴う代表的疾患
775				

776		症候と臨床検査値	代表的な肝臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
777			代表的な腎臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
778			代表的な呼吸機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
779			代表的な心臓機能検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
780			代表的な血液および血液凝固検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
781			代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
782			感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動
783			悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査(列挙)、推測される腫瘍部位(列挙)
784			尿および糞便を用いた代表的な臨床検査(列挙)、その検査値の異常から推測される主な疾病(列挙)
785			動脈血ガス分析の検査項目(列挙)、その検査値の臨床的意義
786			代表的なバイタルサイン(列挙)
787	(2)疾患と薬物治療(心臓疾患等)	薬物治療の位置づけ	代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療(外科手術、食事療法など)の位置づけ
788			適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる
789		心臓・血管系の疾患	心臓および血管系における代表的な疾患(列挙)
790			不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
791			心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
792			高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
793			虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
794			疾患：閉塞性動脈硬化症、心原性ショック
795		血液・造血器の疾患	血液・造血器における代表的な疾患(列挙)
796			貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
797			白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
798			播種性血管内凝固症候群(DIC)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
799			疾患：血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓
800		消化器系疾患	消化器系の部位別(食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓)の代表的な疾患(列挙)
801			消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
802			腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
803			肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
804			膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
805			疾患：食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病
806		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
807	(3)疾患と薬物治療(腎臓疾患等)	腎臓・尿路の疾患	腎臓および尿路における代表的な疾患(列挙)
808			腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
809			ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
810			疾患：糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石
811		生殖器疾患	男性および女性生殖器に関する代表的な疾患(列挙)
812			前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意

813			疾患： 前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症
814		呼吸器・胸部の疾患	肺と気道に関する代表的な疾患(列挙)
815			閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
816			疾患： 上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌
817		内分泌系疾患	ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患(列挙)
818			甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
819			クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
820			尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
821			疾患： 上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病
822		代謝性疾患	糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
823			高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
824			高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
825		神経・筋の疾患	神経・筋に関する代表的な疾患(列挙)
826			脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
827			てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
828			パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
829			アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
830			疾患： 重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆
831		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる
832	(4)疾患と薬物治療(精神疾患等)	精神疾患	代表的な精神疾患(列挙)
833			統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
834			うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
835			疾患： 神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症
836		耳鼻咽喉の疾患	耳鼻咽喉に関する代表的な疾患(列挙)
837			めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
838			疾患： メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎
839		皮膚疾患	皮膚に関する代表的な疾患(列挙)
840			アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
841			皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
842			疾患： 蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症
843		眼疾患	眼に関する代表的な疾患(列挙)
844			緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
845			白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
846			疾患： 結膜炎、網膜症
847		骨・関節の疾患	骨、関節に関する代表的な疾患(列挙)
848			骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
849			慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意

850			疾患：変形性関節症、骨軟化症
851		アレルギー・免疫疾患	代表的なアレルギー・免疫に関する疾患(列挙)
852			アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
853			自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
854			後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
855		移植医療	移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意
856		緩和ケアと長期療養	癌性疼痛に対して使用される薬物(列挙)、使用上の注意
857			長期療養に付随する合併症(列挙)、その薬物治療
858		総合演習	指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。
859	(5)病原微生物・悪性新生物と戦う	感染症	主な感染症(列挙)、その病態と原因
860		抗菌薬	抗菌薬の作用点に基づく分類
861			代表的な抗菌薬の基本構造
862			代表的なβ-ラクタム系抗菌薬の抗菌スペクトルに基づく分類、有効な感染症(列挙)
863			テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙)
864			マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙)
865			アミノ配糖体系抗菌薬の抗菌スペクトルに基づく分類、有効な感染症(列挙)
866			ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症(列挙)
867			サルファ薬(ST合剤を含む)の有効な感染症(列挙)
868			代表的な抗結核薬(列挙)、作用機序
869			細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(列挙)、その作用機序
870			代表的な抗菌薬の使用上の注意
871			特徴的な組織移行性を示す抗菌薬(列挙)
872		抗原虫・寄生虫薬	代表的な抗原虫・寄生虫薬(列挙)、作用機序および臨床応用
873		抗真菌薬	代表的な抗真菌薬(列挙)、作用機序および臨床応用
874		抗ウイルス薬	代表的な抗ウイルス薬(列挙)、作用機序および臨床応用
875			抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点(列挙)
876		抗菌薬の耐性と副作用	主要な化学療法薬の耐性獲得機構
877			主要な化学療法薬の主な副作用(列挙)、その症状
878		悪性腫瘍の病態と治療	悪性腫瘍の病態生理、症状、治療
879			悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけ
880			化学療法薬が有効な悪性腫瘍(治療例の列挙)
881		抗悪性腫瘍薬	代表的な抗悪性腫瘍薬(列挙)
882			代表的なアルキル化薬(列挙)、作用機序
883			代表的な代謝拮抗薬(列挙)、作用機序
884			代表的な抗腫瘍抗生物質(列挙)、作用機序
885			抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイド(列挙)、作用機序
886			抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬(列挙)、作用機序

887				代表的な白金錯体(列挙)、作用機序
888				代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造
889			抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用	主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構
890				主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用(列挙)、その症状
891				副作用軽減のための対処法
892	C15 薬物治療に役立つ情報	(1)医薬品情報	情報	医薬品として必須の情報(列挙)
893				医薬品情報に関わっている職種(列挙)とその役割
894				医薬品の開発過程で得られる情報の種類(列挙)
895				医薬品の市販後に得られる情報の種類(列挙)
896				医薬品情報に関係する代表的な法律と制度
897			情報源	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料
898				医薬品情報源としての代表的な二次資料、三次資料(列挙)とそれらの特徴
899				厚生労働省、製薬企業などの発行する資料(列挙)とそれらの特徴
900				医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけと用途
901				医薬品添付文書(医療用、一般用)に記載される項目(列挙)とその必要性
902				医薬品インタビューフォームの位置づけと用途
903				医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分け
904			収集・評価・加工・提供・管理	目的(治療効果・副作用・相互作用・薬理作用)・経路・投与量・中毒などに合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索・収集できる
905				医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目(列挙)
906				医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる
907				医薬品情報の加工・提供・管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する
908				主な医薬品情報の提供手段(列挙)、それらの特徴
909			データベース	代表的な医薬品情報データベース(列挙)、それらの特徴
910				医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる
911				インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を説明できる
912			EBM(Evidence-Based Medicine)	EBMの基本概念と有用性
913				EBM実践のプロセス
914				臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など)の長所と短所
915				メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる
916				真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違い
917				臨床適用上の効果指標(オッズ比、必要治療数、相対危険度など)
918			総合演習	医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目(列挙)
919				医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる
920		(2)患者情報	情報と情報源	薬物治療に必要な患者基本情報(列挙)
921				患者情報源の種類(列挙)、それぞれの違い
922			収集・評価・管理	問題志向型システム(POS)
923				薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる

924			患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる
925			得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する
926			SOAPなどの形式で患者記録を作成する
927			チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる
928			患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる
929	(3)テラーメイド薬物治療を目指して	遺伝的素因	薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因(例示)
930			薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(例示)
931			遺伝的素因を考慮した薬物治療(例示)
932		年齢的要因	新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点
933			幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点
934			高齢者に対する薬物治療で注意すべき点
935		生理的要因	生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点
936			授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点
937			栄養状態の異なる患者(肥満など)に対する薬物治療で注意すべき点
938		合併症	腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
939			肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
940			心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点
941		投与計画	患者固有の薬動的パラメーターを用いて投与計画ができる
942			ポピュレーションファーマコネクティクス概念と応用
943			薬動的パラメーターを用いて投与計画ができる
944			薬物作用の日内変動を考慮した用法
945	C16 製剤化のサイエンス	(1)製剤材料の性質	物質の溶解
946			溶液の濃度と性質
947			物質の溶解とその速度
948			溶解した物質の膜透過速度
949			物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割
950		分散系	界面の性質
951			代表的な界面活性剤の種類と性質
952			乳剤の型と性質
953			代表的な分散系(列挙)とその性質
954			分散粒子の沈降現象
955		製剤材料の物性	流動と変形(レオロジー)の概念、代表的なモデル
956			高分子の構造と高分子溶液の性質
957			製剤分野で汎用されてる高分子の物性
958			粉体の性質
959			製剤材料としての分子集合体
960			薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法(列挙)
			粉末X線回折測定法の原理と利用法

961			製剤材料の物性を測定できる
962	(2)剤形をつくる	代表的な製剤	代表的な剤形の種類と特徴
963			代表的な固形製剤の種類と性質
964			代表的な半固形製剤の種類と性質
965			代表的な液状製剤の種類と性質
966			代表的な無菌製剤の種類と性質
967			エアゾール剤とその類似製剤
968			代表的な製剤添加物の種類と性質
969			代表的な製剤の有効性と安全性評価法
970		製剤化	製剤化の単位操作および汎用される製剤機械
971			単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製する
972			汎用される容器、包装の種類や特徴
973		製剤試験法	日本薬局方の製剤に関連する試験法(列挙)
974			日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる
975	(3)DDS(薬物送達システム)	DDSの必要性	従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点(列挙)
976			DDSの概念と有用性
977		放出制御型製剤	放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点
978			代表的な放出制御型製剤(列挙)
979			代表的な徐放性製剤における徐放化の手段
980			徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質
981			経皮投与製剤の特徴と利点
982			腸溶製剤の特徴と利点
983		ターゲティング	ターゲティングの概要と意義
984			代表的なドラッグキャリアアー(列挙)、そのメカニズム
985		プロドラッグ	代表的なプロドラッグ(列挙)、そのメカニズムと有用性
986		その他のDDS	代表的な生体膜透過促進法
987	C17 医薬品の開発と生産	(1)医薬品開発と生産のながれ	医薬品開発のコンセプト
988			医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子(列挙)
989			疾病統計により示される日本の疾病の特徴
990		医薬品市場と開発すべき医薬品	医療用医薬品で日本市場及び世界市場での売上高上位の医薬品(列挙)
991			新規医薬品の価格を決定する要因
992			ジェネリック医薬品の役割
993			希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性
994		非臨床試験	非臨床試験の目的と実施概要
995		医薬品の承認	臨床試験の目的と実施概要
996			医薬品の販売承認申請から承認までのプロセス
997			市販後調査の制度とその意義
			医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)